

川村雅則ゼミⅠ・Ⅱ

参加学生数17人(院生1人)



川村 雅則

経済学科
准教授●川村ゼミ報告書
『学生アルバイト白書2013』

①若者の労働と生活、②学生アルバイトの実態

研修地：札幌市

●研修目的

●今年は、若年層の労働と生活をメインテーマに取り上げ、①定時制高校に通う生徒の就職等の問題、②若年労働者にみられる長時間労働や非正規雇用問題、さらに、③ここ数年注目を集める生活保護問題という3つを具体的な調査研究テーマとした。文献研究のほか、進路指導にあたる教員からの聞き取り(定時制高校)、労働組合専従者や組合員からの聞き取りを行った。また、労組主催の学習会やイベントに参加し、労働組合との交流を図った。

●学生アルバイト調査と『白書』づくりに取り組んだ。現在アルバイトをしている北海学園大学の学生を対象に、アンケート(有効回答213人)と聞き取り(同30人)を行い、学生バイトにみられる違法行為やトラブルの把握と、ワークルールなどを活用した、問題解決の方法を考えた。

●総括

①若年層の労働と生活調査のうち、まず定時制高校で聞いた話は、就職問題における階層性を意識させられる内容だった。入学者のうち半数近くが卒業までにやめてしまうこと(他校への移動を含む)。一人親世帯が多く、生活保護世帯も少なくないこと。保護者の失業・病気による生活困窮が生徒の就学や生活に影響を与えており、進路は、進学や正社員での就職の一方で、アルバイトの継続や進路未定のままでの卒業も多いことなど、である。

次に、労働組合・労働者からの聞き取りでは、労組の受けた相談ケースだからという事情はあるにせよ、過労死ラインをゆうに超えるほどの長時間労働で、しかも残業代は全く支給されないというケースや、正社員に混じって同じラインで同じ仕事に従事するけれども、給与は3分の1程度で昇給もなく、有期雇用で働く非正規労働者など、調査協力者が思うように見つからず十分な数の聞き取りはできなかったものの、若年労働の一端を垣間見ることが出来た。



労組・チカホイベントで報告

学 生 研 修 記

泣き寝入りしないためのワークルール

川村ゼミⅠでは、北海学園大学の学生を対象にアルバイトの実態調査を行い、その結果を『アルバイト白書』にまとめました。

調査でまず驚いたことは、アルバイトをしている学生の半数以上が、1日5時間以上働いていたことです。学業に支障が出ているという学生も少なくありませんでした。さらに、アルバイトへの不満は思いのほか多く、「サービス残業」や「割増分の賃金が支払われない」など違法行為も訴えられていました。学生バイトとはいえ労働者であるのに、ワークルールを知らないと、問題が起きても泣き寝入りせざるを得ません。自分を守るためにもワークルールを学び、問題解決の選択肢を増やすことが大切だと感じました。

まずは『アルバイト白書』を読んでもらい、就職する前に「働くこと」「労働」について考えてみて欲しいと思います。

学生にも身近になりつつある「ブラック」

僕たちのゼミでは、労働問題について勉強してきました。とくに、最近よく聞かれる「ブラック企業」問題が多く取り上げられました。前期のゼミで読んだ本の中では、森岡孝二編『就活とブラック企業——現代の若者の働きかた事情』(岩波ブックレット)という本が印象深く、ブラック企業の弊害、そしてそれを避ける方法や立ち向かう方法を学ぶことができました。

後期のゼミは、こうした勉強をふまえ、学生アルバイトの調査を行いました。すると、アンケートや聞き取りを通じて明らかになったのは、学生アルバイトにも、サービス残業や賃金未払い、パワハラ的な扱いを受けるなどブラック企業のような問題がみられたことです。僕たちと無縁の問題ではなかったのだと思いました。労働環境をより良くするにはどうすればいいかを考えさせられた調査活動でした。



藤原 良太

経済学科2年
駒江南高校出身

宮下 雄一

経済学科2年
苫小牧東高校出身

研修地・日程

前期

若者の労働と生活に関する文献研究。主なテーマは、若者と就職、ブラック企業と若者労働、若者と社会保障など。

夏期休暇(前後を含む)

- ・定時制高校5校を訪問し、進路指導の担当教員から聞き取り。
- ・労働組合(「道労連」)を複数回訪問し、専従者から聞き取り。
- ・労働組合から紹介された若年労働者5人からの聞き取り。

後期

- ・9月から学生アルバイト調査に着手。調査の結果をまとめ、『白書』づくりに取り組む(ゼミⅠ)。
- ・インターゼミナール大会参加に向けた論文執筆作業を開始(ゼミⅡ)。
- ・労働者調査や学生アルバイト調査の結果を、労働組合(「道労連」)の主催するイベント(9月29日)で報告。
- ・労働組合(「札幌地域労組」)の主催する学習会などに参加。
- ・11月29日開催の公開授業で、学生アルバイト調査の結果を報告(ゼミⅠ)。
- ・12月7、8日に関東学院大学で開催されたインターゼミナール大会に参加し、「若者の労働と社会保障」をテーマに分科会で討論を行う(ゼミⅡ)。



1



2



3



労組・テカホイベントに参加



インゼミ大会 (@関東学院大学) に参加



インゼミ分科会の風景



討論を終えて分科会の両ゼミで記念撮影

上記の調査結果を、(1)9月29日、地下歩行空間で開催された労働組合主催のイベント（「ユニオンフェア」）で報告。(2)論文にまとめて、12月7、8日関東学院大学で開催されたインターゼミナール大会に参加。「若者の労働と社会保障」というテーマで討論。一年間の勉強の成果を発揮した。

②学生アルバイト調査と『白書』づくりは、今年で3年目になる。大学生のキャンパスライフのうち少なからぬ部分がアルバイト生活に費やされているが、相変わらず、アルバイトにおけるワークルールの軽視が目立つ。「定番」の（？）不払い労働にはじまり、仕事上のミスへのペナルティ、商品の買い取り・ノルマ、急な呼び出し・シフトの変更、長時間労働・残業、パワハラ・セクハラなどなど、である。今年は、聞き取り調査に力を入れ、アルバイト実態や問題の掘り起こしに力を入れた。結果の詳細は『白書』を参照されたい。→<http://www.econ.hokkai-s-u.ac.jp/~masanori/index>

11月29日に開催した公開授業「これでいいのか、学生バイト!! 大学生のアルバイトを考える」で、アルバイト調査結果を学生自身が報告した。助言講師に「札幌地域労組」鈴木一書記長を招く。



札幌地域労組 鈴木一書記長を招いての公開授業



公開授業で報告

学生研修記

定時制高校の現状を知って



千葉 雅己
経済学科3年
石狩南高校出身

私たちは、若者と就職というテーマで定時制高校の就職問題に取り組みました。就職問題で不利な立場にあるのが定時制高校の生徒たちだと思ったからです。定時制高校5校を訪問して、主に進路指導の先生から聞き取りを行いました。調査でわかったのは、全日制の生徒と比べ、経済的に困窮していたり家族関係での不利を抱えている生徒が多いということです。私自身、この調査活動に取り組むまで定時制高校についてはほとんど何も知らず、ほぼ同年齢の若者にこんなにも格差があることに辛い気持ちになりました。

また、論文を書くにあたって、定時制高校の調査や研究があまり行われていないことには驚きました。経済的理由など本人ではどうすることもできない理由で就職格差が生まれている現状を是正すべく、定時制高校の調査を進め、制度・政策的な支援を行うべきだと思いました。

労組・労働者からの聞き取りで学んだもの

若年労働者の労働実態を学ぶため、労働組合の専従者と、組合員（24～34歳の労働者）5人から聞き取りを行いました。

老若男女問わず、また、長時間労働／パワハラ・セクハラ／賃金・残業未払いなど様々な内容の相談が組合には寄せられているそうです。1ヶ月に180時間以上のサービス残業を強いられたケース（パン屋）、1日14～16時間という長時間働かされ、時給換算すると給与は400円だったというケース（美容師）など、想像を超える働かされ方でした。

労使関係は、建前上は対等とされていますが、実際の労働者は、多少無理をしてでも使用者の指示に従い、不満や違法行為があってもそれを指摘するのは困難です。概して、言いなりになりがちだと思いました。高校生・大学生のうちから労働法に関する知識を深め、そうした問題への対処方法を学ぶ必要性を強く感じました。



石橋 飛鳥
経済学科3年
室蘭南高校出身

写真キャプション

①～③ 労組等での聞き取り。④ 定時制高校での聞き取り。⑤⑥ 介護労働者・労組学習会に参加。⑦⑧ 学内でアンケート調査票の配布。⑨『アルバイト白書』の構成を検討。



7



8



4



5



6



9